

# 広報 **ふじ** NO.200

発行・富士市役所  
富士市永田61-1

編集・  
企画調整部広報広聴課  
【毎月5日と25日発行】

51.3.25 発行



ゼンソク児が水泳で体力づくり（毎週木曜日にスイミングクラブ・富士スポーツハイツで）

# 第4回世論調査

## 要案のトランプは公害対策

第4回目の世論調査を昨年10月13日から25日まで行いましたが、ご協力ありがとうございました。調査は市民のみなさんが日常のくらしのなかで、生活環境と市の行政をめぐる問題について、どのように感じているか調べ、今後の適切な行政運営の参考資料とするために行いました。

対象者は選挙人名簿から無作為抽出で男女1326人（選挙人名簿登録者の1割）を選

び出しました。調査は富士市の住みごこち今後とくに力を入れてほしいものなど5項目について行ない、586人（44.2割）から回答がありました。なお、今回の回収率は、44.2割でしたが、第1回目は49.7割、2回目は41.9割、3回目は51.9割で、郵送方法による調査では平均的な回収率といえます。それでは、項目別に集計結果をお知らせいたします。

### 富士市の住みごこち

#### 60パーセントが20年以上の長期居住者

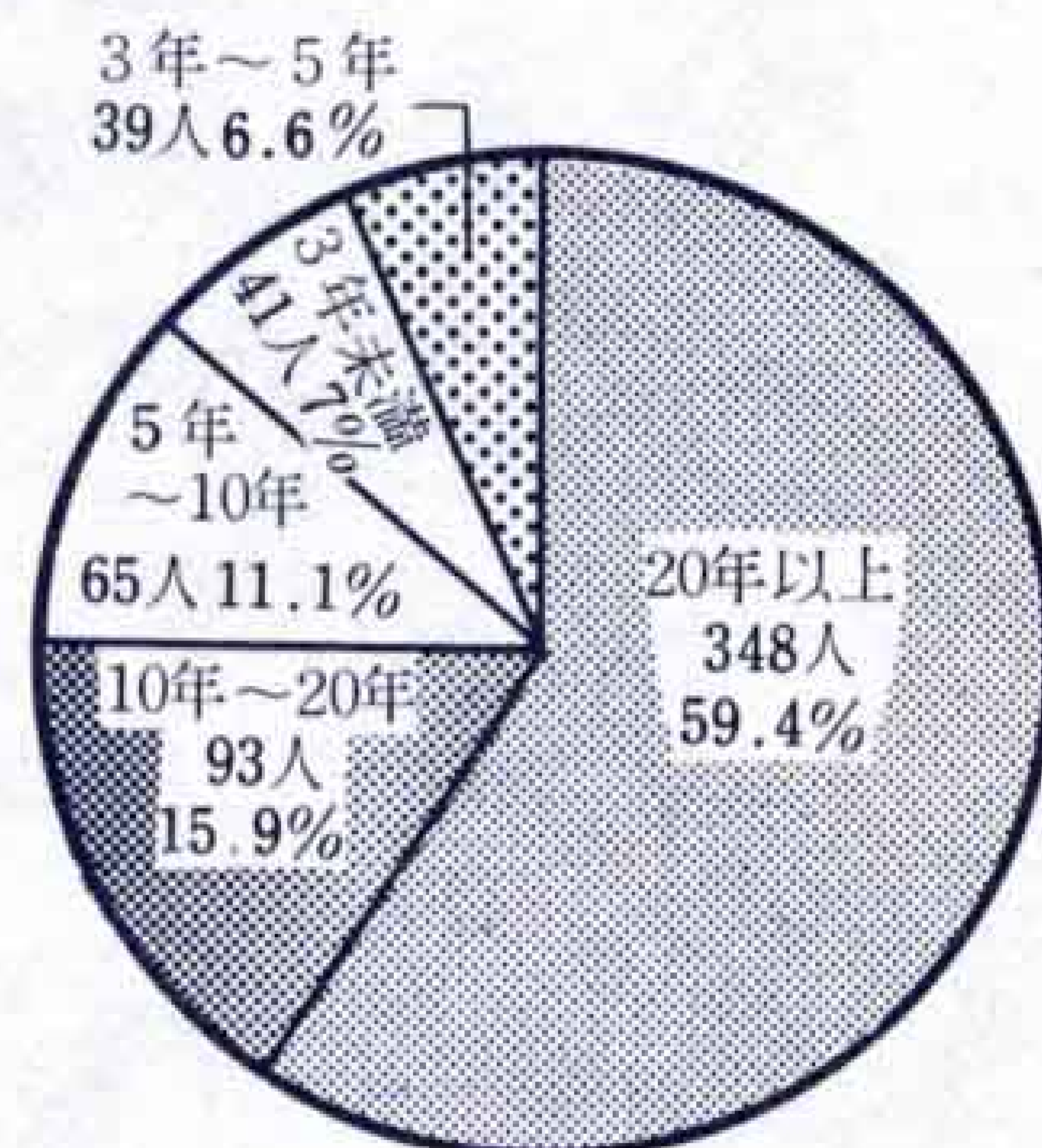
回答のあった586人の居住年数は、20年以上の長期居住者が60割、10年未満の短期居住者が25割、10～20年の中間層が15割でした。

地区別にみると10年未満の短期居住者は、新興住宅地の広見、宅地化などが進んでいる岩松、鷹岡地区に多くなっています。広見地区は団地が出来て間もないので当然のことですが、岩松、鷹岡地区では、今後人口が増加する傾向にあります。20年以上の長期居住者は、元吉原、吉永地区に多く約80割の高率を示し、これらの地区では人口の移動が少ないことが伺えます。

年齢別では、10年未満の短

期居住者は、20才、30才代の若い年代が多く、なかでも3年未満の富士市に来てまもない人は、20才代が圧倒的に多くなっています。また、5年～10年の居住者では30才代が多いことから、20才代で富士市に来てそのまま住みついていると考えられます。

市外から富士市に来てまもない若い勤労者が増えつつあり、富士市の都市化に拍車をかけています。将来に向って都市づくりを行う際は、



全体の人口増はもとより、地域的な人口増も考えた施策が要求されます。

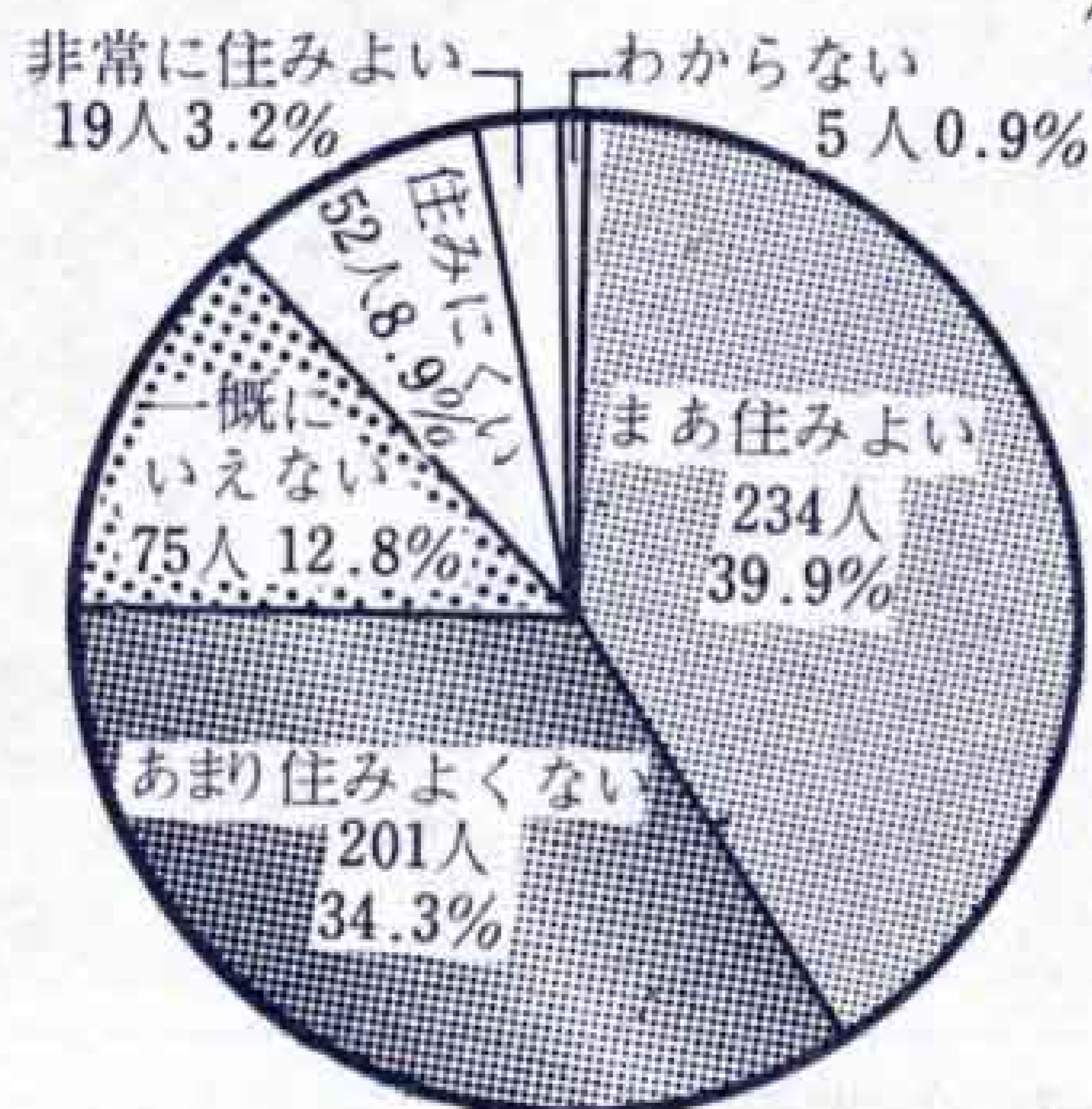


### 公害がひどい地域ほど住みにくい

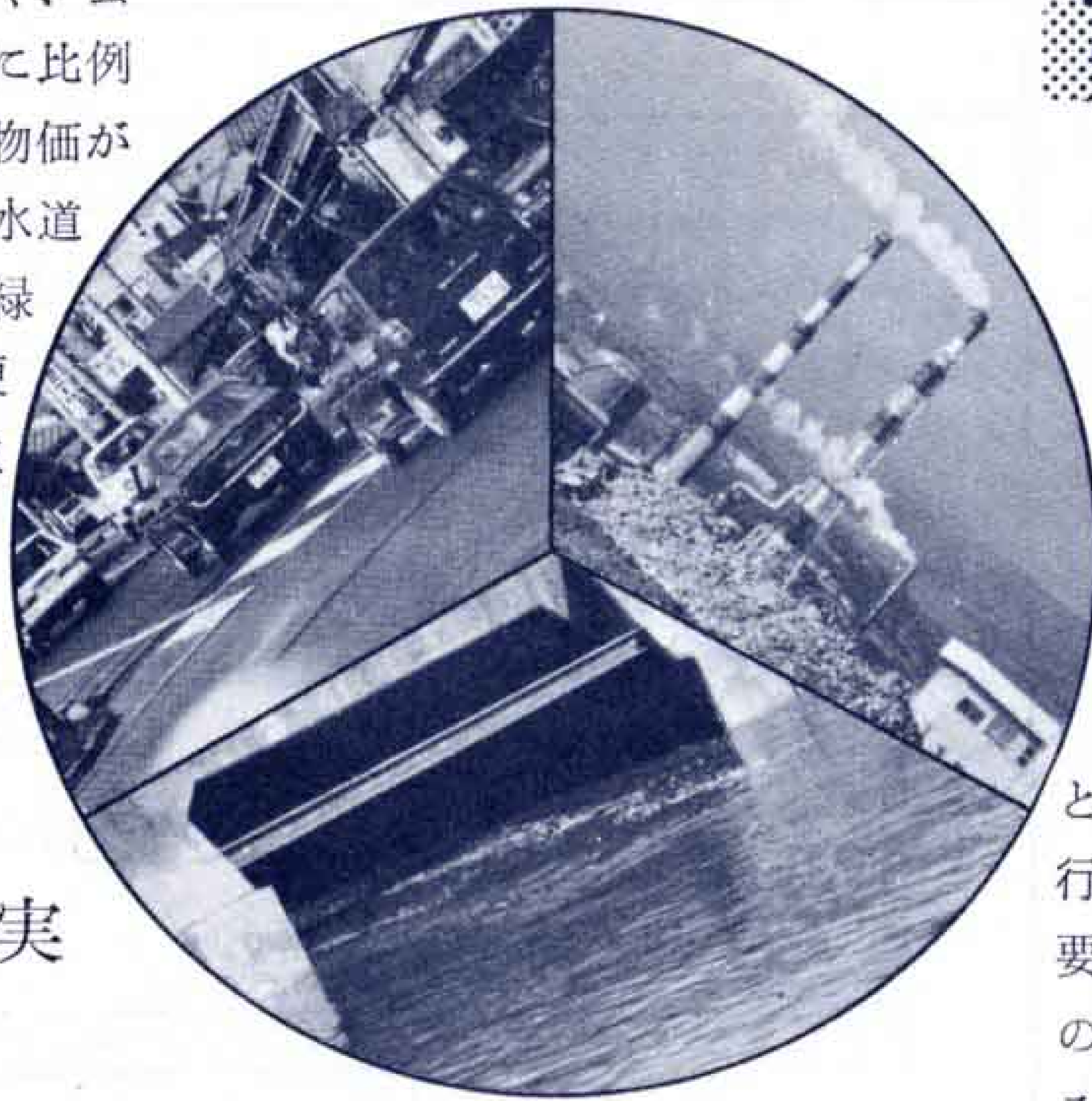
富士市の住みごこちについては「非常に住みよい」「まあ住みよい」と「あまり住みよくない」「住みにくい」と答えた人は半々でした。非常に住みよいと答えた人は、須津・浮島、広見、大淵地区に多く、逆に住みにくいは、元

吉原、吉永、鷹岡地区が多くなっています。

居住年数別では、住めば都といわれるように、住みよいと答えた人は長期居住者ほど多くなっています。なお、住みにくい理由としては、騒音排気ガス、大気汚染などの公



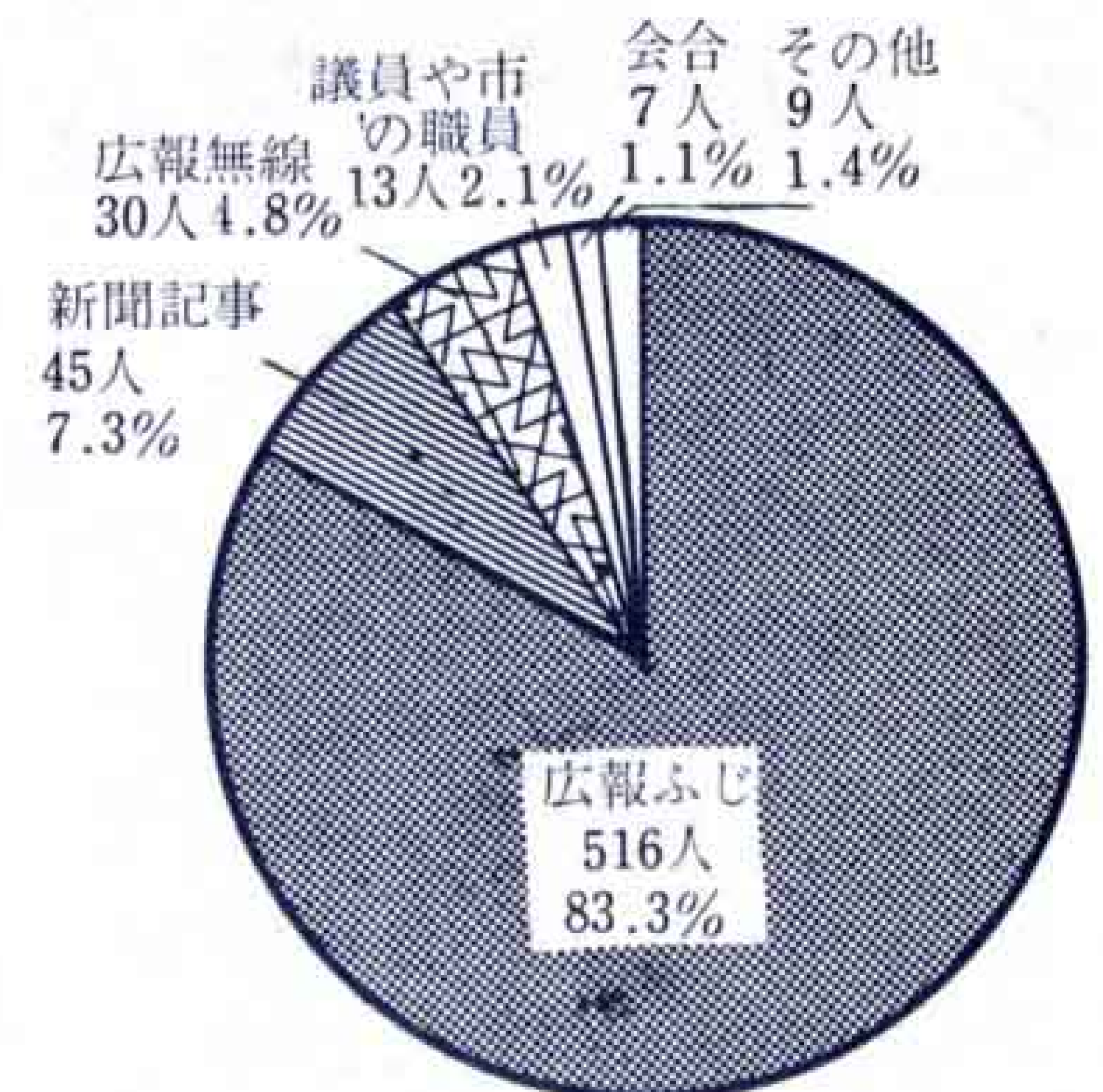
害に悩まされているが一番多く、公害の被害の程度が住みにくさに比例しているようです。ついで「物価が高い」「都市整備（道路・下水道など）が遅れている」「公園緑地が少ない」「買物や交通の便が悪い」「保健医療施設に恵まれていない」などの順です。



## 市政について

### 広報紙が市民と行政を結ぶパイプ役

市役所の仕事を何によって知るかの質問に対しては、「広報ふじ（おしらせ広報）」と答えた人は83名、「新聞記事」7名、「広報無線」4名などです。このことから、広報ふじ・おしらせ広報が行政と市民を結ぶパイプ役として重要な役割をもっていると考えられるので、今後より多くの市民に読まれるよう内容を充実していかなければなりません。なお、その他の中で、テレビによる広報を望む声が多くあり、今後の課題として考えて行く必要があります。



今後とくに力を入れてほしいもの

### 公害対策 物価の安定 医療施設の充実 が上位

市が行っている仕事で特に力を入れてほしいものとして、「公害対策（大気汚染・汚水・悪臭など）」をあげた人が一番多くありました。ついで「物価を安定させる対策」「病院など医療施設の充実」「下水道の整備」「公園や子供の遊び場を増やす」などです。

市では、ここ数年間公害対策に取り組み、かなりの効果を上げていますが、公

害対策に要望の多かったのは、大気汚染、水質汚染のほか、騒音、振動などの公害にも批判の目が向けられてきたものと思われま

す。なお、社会福祉の充実が3.9と他の項目に比べて低く、前回調査より5名も減少していますが、これは不況下のおり市民が物価など身近な生活に直面する問題に目を向けたためと思われま

項目	5%	10%	15%
1. 道路の整備・舗装	5.3		
2. 都市計画事業	3.1		
3. 下水道の整備	8.2		
4. し尿・ごみ処理をよくする	2.7		
5. 蚊やハエをなくす	4.0		
6. 安い価格の住宅・宅地の供給	5.9		
7. 公園や子供の遊び場を増やす	7.1		
8. 物価を安定させる対策	13.9		
9. 農林漁業の振興を図る	1.1		
10. 商工業の振興や観光開発に力を入れる	1.6		
11. 公害対策	16.0		
12. 病院など医療施設の充実	12.1		
13. 交通安全施設の整備	3.0		
14. 火災・風水害などの防災対策	1.7		
15. 教育施設の充実	5.3		
16. 社会教育活動に力を入れる	1.6		
17. スポーツ施設の充実	3.3		
18. 社会福祉の充実	3.9		
19. その他	0.2		

### 市民の意見を市政に反映させるには

男性 為政者との対話  
女性 調査による広聴

現在の富士市政は、住民の意見を十分反映しているかについては、「反映している」と答えた人は48.3名、「反映していない」34.1名で、「わからない」17.6名でした。そこで、市民本位の行政を進めるためにはどのような方法で意見を聞いたらいいかは、「市民との対話・集会などを積極的にやる」17.6名、市民の声を広報紙に掲載する」16.8名の順です。市民との対話・集会などを積極的に  
(次ページへ続く)

やる、市政座談会をあげた人は男性に多く、世論調査やアンケートを多くやる、市民の声を広報紙に掲載するをあげた人は女性が多くなっています。したがって、男性は為政者との対話（集団広聴）を望み、女性は調査による広聴を望んでいます。なお、須津・浮島、大淵、田子など、市役所から比較的離れた地域では移動市民相談を望んでいます。



項目	10%	20%
1. 市政座談会	14.3	
2. 移動市民相談	7.7	
3. 世論調査やアンケートを多くやる	16.9	
4. 市民相談室を強化する	7.5	
5. 「市長への手紙」を出す	2.5	
6. 市民の声を広報紙に掲載する	16.8	
7. 市政モニター制度を充実する	7.6	
8. 納涼相談の実施	1.2	
9. 市民との対話・集会などを積極的にやる	17.6	
10. 提案週間などを設けて意見をきく	7.0	
11. その他	0.9	

## シビル・ミニマムと富士市の将来

### 市民とともに考えて 将来の富士市を

シビルミニマム設定計画が市民にどの程度理解されているかについては、「よく知っている」と答えた人が7名、「名前を知っている」23名、「知らない」70名でした。この数字から、今後シビルミニマムを実現させていく上には、この計画が市民生活にどのように結びつき、どのような

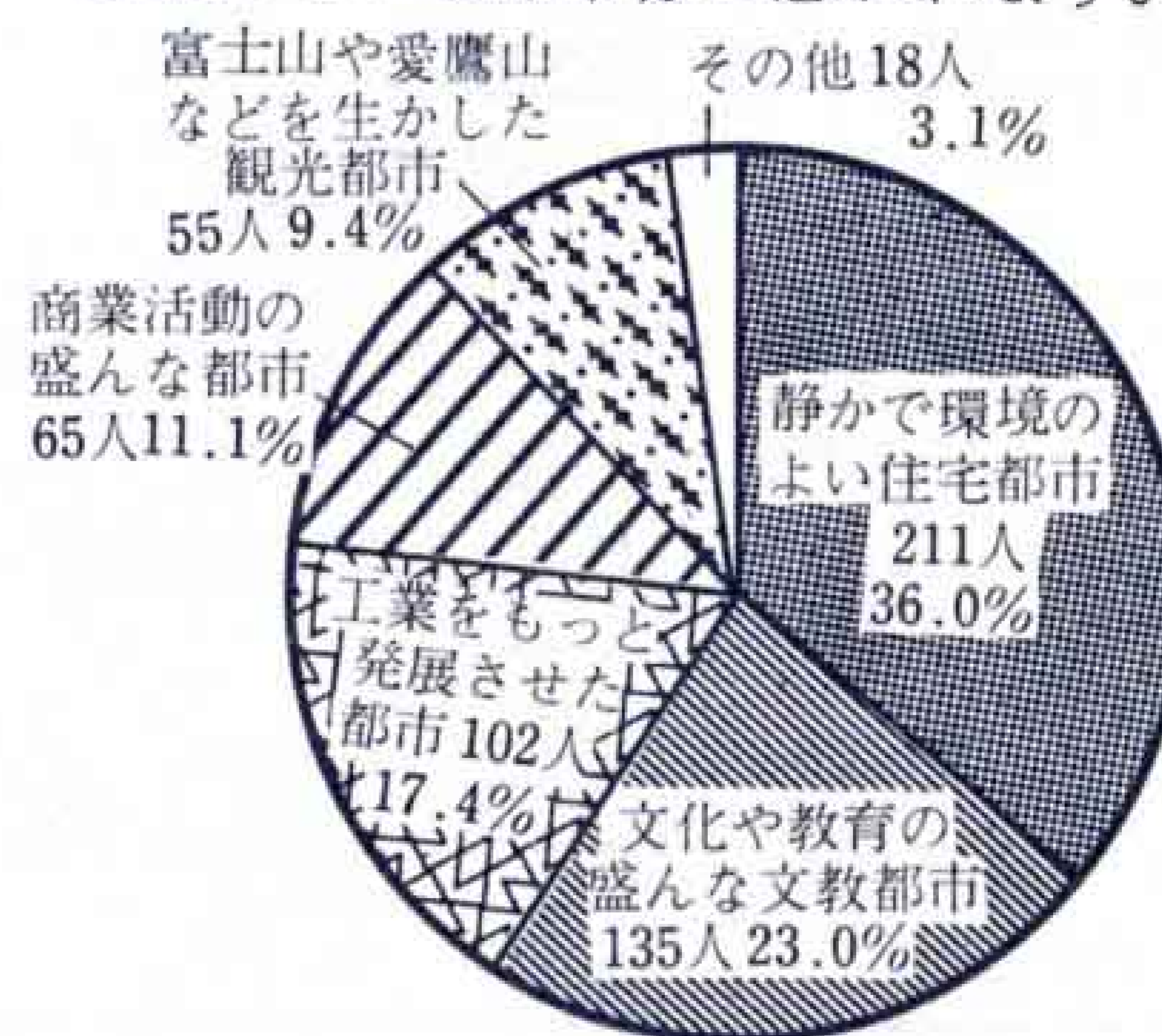
効果があるかを提示し、市民とともに話し合い将来の富士市づくりを進めていかなければなりません。

### 市民が望む都市像は 「調和のとれた都市」

富士市が将来どのような都市になったらよいかについては、「静かで環境のよい住宅都市」と答えた人は36名、次いで「文化や教育の盛んな文教都市」23名、「工業をもっと発

展させた都市」17.4名などです。ほとんどの地区は静かで環境のよい住宅都市を望んでいますが、須津・浮島、岩松、鷹岡地区は、文化や教育の盛んな文教都市を上げています。

富士市は工業都市的性格を持ち、公害に悩まされている現状などからこの質問に対しては、静かで環境のよい住宅都市、文化や教育の盛んな文教都市の2項目に市民の意見が集中されるものと予想しました。しかし、工業をもっと発展させた都市、商業活動の盛んな都市、富士山や愛鷹山などを生かした観光都市と答えた人も多くありました。総合してみると、市民は住みよい生活環境を守りながらも産業の発展を考えている点から、調和のとれた都市が市民の最も望んでいる都市像と思われます。



## シビル・ミニマム

シビル・ミニマムは、近代都市が住民のために当然備えていなければならない最低限の水準で、市民が安全・健康・快適・能率的な生活をするのに必要な最低限度の条件です。

そこで市は、昭和60年を目標にしたシビル・ミニマムを設定するため、49年から作業をはじめました。しかし、今日の不況下で、国の経済見通しも流動的であり、地

方財政の危機が叫ばれるなど、長期的な財政計画を立てることも大変むずかしい状態です。また、こうした状況の中で、将来の人口増なども見直し、現在全体の取りまとめを行っています。このため作業がすこし遅れていますが、原案がまとまりしだい市民のみなさんにお知らせし、広く意見を聴きながら、不十分な所を補い策定いたします。

# 斉場会館の建設用地決る

大淵字小河窪地先に  
約45000平方メートルの用地を取得

広域市町村圏事業の一環として斉場会館の建設を行いますが、このほど建設用地が決まりました。場所は大淵字小河窪地先で、51年度に用地取得を行い、その後建設に取りかかります。それでは、斉場会館の概要と広域市町村圏事業についてお知らせいたします。

## 富士市・富士宮市・芝川町で建設

現在の火葬施設は、富士市が鷹岡中学校の西側に炉数5基を持ち、富士宮市は3基で、芝川町は富士宮市に依存しています。しかし、両市の

施設とも建設してから10数年以上もたち、古くなってきたため近代的な施設整備が必要となっています。しかし、同じ場所に新しく建設するに

は場所が狭く困難な状態です。

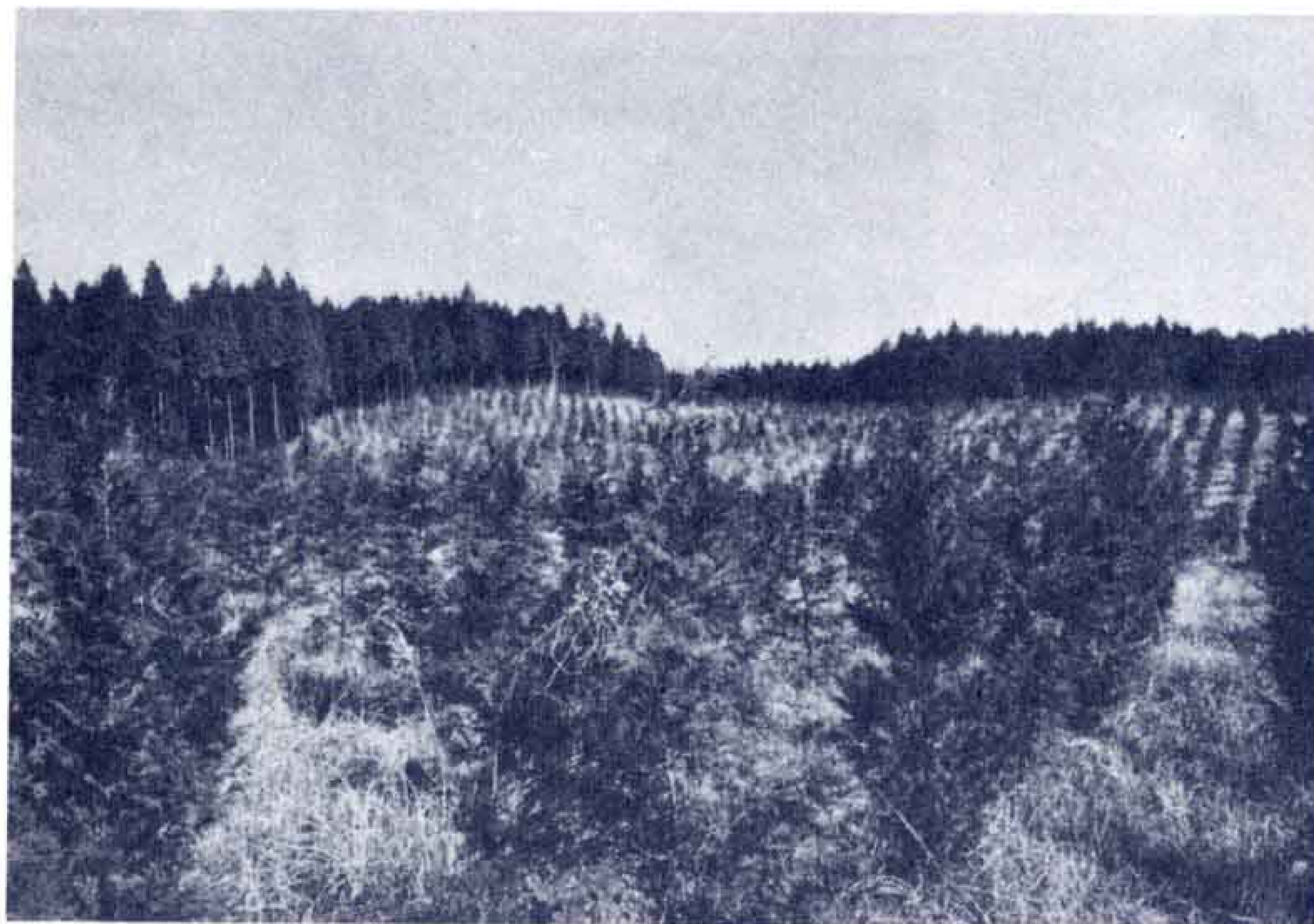
そこで、富士地区広域市町村圏事業の一環として、共同で使用できる施設を計画しました。また、将来のことを考えて火葬場だけでなく、葬儀もできるように斉場を備えた施設となります。

そこで、こうした計画のもとに富士地区広域市町村圏協議会は

- 2市1町のほぼ中間で使いやすい場所
- 広い用地が確保できる場所

などの条件で、これまで用地選定を行ってきました。候補地は関係町内と話し合った結果、最終的に大淵字小河窪地先にこのほど決まりました

小河窪は標高約400メートルの所ですが、その中に火葬場、斉場、小公園、駐車場などをつくる予定です。とりあえず51年度中に地主の方々のご協力をいただき約45000平方メートルの用地取得を行います。



【用地取得を行う大淵小河窪地先】

## 富士地区は昭和47年に設定

### 広域市町村圏

生活水準が向上し、都市はもとより農山漁村においても、都市的生活様式を営むようになりました。しかし、それに比べ道路や下水道施設など公共施設の整備が非常に遅れ、住民の日常生活に必要な行政サービスを提供する市町村としては、早急に公共施設を整備する必要にせまられています。

一方、交通通信手段の発達で

住民の生活行動範囲は拡大し、市内だけにとどまらず、近隣市町にも及び日常生活圏が形成されつつあります。そこで、住民の日常生活圏を一体とした行政を行うためには、市や町が共同して協力体制を整えることが必要となります。

広域市町村圏の施策は、このように市や町が当面している問題を解決するものですが、富士

地区の場合富士市、富士宮市、芝川町は昔からお互いに有機的な関係を持ちながら発展を続けてきました。

このような背景の中で、昭和47年2市1町は富士地区広域市町村圏として設定されました。なお富士地区広域市町村圏事業は斉場会館をはじめ、誘致運動を行っている県立高校の建設などがあります。

おたずね  
します

### 樹木を植えるのによい時期は

家を新築したので庭をつくろうと考えていますが、せっかく植えても枯らしてしまっただけでは、残念ですし無駄使いになります。樹木によって植えるのによい時期があると思いますが、市で春と秋に開

いている植木市はそれに合わせてあるのでしょうか。それと庭木にはどんな種類を植えたらいいか、わかりましたらおしえてください

〈富士見台・加藤〉

### 常緑樹の移植は 4～6月が適期

4月はサクラの花からはじまり、ライラック、ハナミズキ、カイドウと咲きつがれて下旬ごろからボタンが満開となり、芳香をただよわせてくれます。いろとりどりのツツジが咲くのも今月です。樹木や草花は新しい芽をふき春の装いをします。

さて、おたずねの樹木の植え替え時期ですが、常緑樹は4月から6月が適期で、比較的芽の出るのが早いものは中旬、そのほかは下旬から6月にかけてです。落葉樹はもうすぐ新芽が出るので、移植にはあまりよくありません。植え替えるのは、葉の落ちた10月下旬から翌年の3月上旬までです。

庭木によい樹木は、常緑樹でサザンカ、サツキ、モチノキ、カイヅカ

イブキ、ツバキ、クチナシなど、落葉樹でウメモドキ、カエデ、カイドウ、サルスベリ、イチヨウなどがあります。以上の樹木はほんの一部ですが、庭をつくる場合、常緑樹、落葉樹などの高木、低木をうまく利用し、バランスよく植えること、1年計画でやるのが理想的です。

なお、梨の赤星病の中間寄生植物となっているイブキ、シンパク、ネズミサシエンピツビヤクシンなどは梨園から1畝四方では植えられませんので注意してください。

緑と花の百科展は4月と10月の2回開いていますが、この時期は気候もよく花の咲くものが多く見られることや、植木の手入れによい時期です。それと春

は常緑樹、秋は落葉樹の植え替えに適しているためです。今年も緑と花の百科展を、4月18日に市役所北側駐車場で行います。

なお、緑と花の相談は、みどりの課(51-0123 内線333)で行っています。緑と花の百科展でも相談コーナーを設けてありますからご利用ください。



【緑と花の百科展は4月18日に開きます】

### 4月の



休日当直医院は、富士市医師会が急病者のために定めたものです。ところが、最近、かかりつけの医院がやすみなのでみてくださいと、当直医院に来る人が多くなりました。特に医療センターに多く、急病者の診察に支障をきたしていますので、当直医院は急病のときにだけご利用ください。

#### ■4月4日

- 外科 神谷医院(川成島 61-5900)
- 米山病院(吉原4 52-3060)
- 産婦人科 米山病院(吉原4 52-3060)

#### ■4月11日

- 外科 藤井医院(松岡 61-7811)
- 渡辺病院(錦町1 51-3751)
- 産婦人科 長野医院(柚木 61-1907)

#### ■4月18日

- 外科 田辺医院(本市場 61-8410)
- 米山病院(今泉1 52-0275)
- 産婦人科 中央病院(本市場61-8800)

#### ■4月25日

- 外科 中央病院(本市場 61-8800)
- 石川医院(浅間本町 52-1985)
- 産婦人科 谷医院(八幡町 61-0039)

#### ■4月29日

- 外科 松本医院(久沢東 71-2570)
- 芦川病院(中央町2 52-2480)
- 産婦人科 池谷医院(水戸島本町 61-0873)

※内科、小児科は富士医師会が「医療センター」で行っています。診療時間は午前9時から午後5時までです。ただし受付時間は4時30分までです。医療センターでは、日曜祝祭日以外は行っておりません。

#### 医療センター案内図



医療センターの住所は「富士市伝法字杉ノ木2850-2(長者町)」電話は52-3104です。



## 岩松地区うで自慢 のど自慢演芸大会

くろろと顔まけの歌やおどりははじめ、手品や尺八、詩吟とバラエティに富んだ出しもでにぎわった「第1回岩松地区うで自慢・のど自慢演芸大会」、3月14日岩松小体育館で行われました。演芸大会は、これまでの文化祭に変わって、だれでも気軽に参加できるようにと開いたもので、46の個人やグループが出演しました。1度は舞台に立って歌ってみたかったというお年寄りをはじめ、家族の声援を受け得意の手品をひろうする人など、会場は一日中おおにぎわいでした。

## 赤ちゃんの成長を記念して サザンカを配布

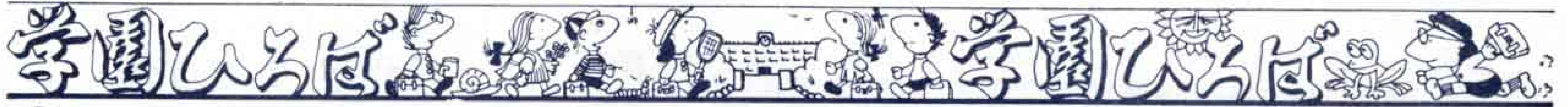
昨年生まれた赤ちゃん3777人の成長を記念して、全員にサザンカの苗をおわけしました。サザンカは11月から3月ごろまで咲き、赤と白の2種類あります。今回は赤い花が咲く3年生の苗を、3月9日の伝法公民館をはじめ4日間に各公民館、市役所西側広場で配布しました。



## 富士川堤防でマラソン大会

体力づくりにマラソンをはじめる人が増えていますが、富士第1地区では、3月7日富士川堤防でマラソン大会を開きました。小学生から大人まで50人が参加して、5組にちょう戦、全員が完走しました。

マラソンで体力づくりを  
しましょう



# ふるさと の歴史



## 神谷のお不動さん

神谷には昔からお不動さんが祭られています。お不動さんの本殿は、いはい岳の南へのびた尾根がたいらになるあたりに建っています。

神谷村の後藤さんというお金持の土蔵には、長い間白い蛇が住みついていた。白い蛇は神様の使いだといわれ、大変めずらしいものです。

ある時主人が、「もしお前が神様の使いならこの三宝にのれ」といいました。するとどうでしょう。白い蛇はスルスルと体をまいて三宝にのりました。おどろいた主人は、やっ

ぱり神様の使いであったかと三宝にのせたままお不動さんの本殿に持っていきました。

お不動さんのお祭りは毎年3月28日ですが、この日になるとふだんにも見えないのに岩のわれ目に銀色にかがやくものが見えます。土地の人達は、あの白い蛇ではないかといっています。

また、このお不動さんを「下のお不動さん」といいここから約600m山の方には「山の不動さん」があります。二つのお不動さんは

仲が悪く山の不動さんのお祭りに雨がふると下の不動さんのお祭りにはきまって晴れるといわれています。

今年の3月8日は晴でしたから、28日はどうかな。



### 第3回少年サッカー大会

A・Bブロックに21チームが参加

各チームの実力が接近し、好試合が続いた少年サッカー大会。6年生を中心にしたAブロック、5年生以下のBブロックに21チームが参加して、3月7日と14日の2日間、富士第1小と吉原小で行いました。参加チームが多かったので、7日に予選、14日準決勝以上を行いました。熱戦のすえ、Aブロックで吉原小学校、Bブロックで今泉小学校がそれぞれ優勝しました。

### 防火作文の入賞者を表彰

富士市防火協会が小中学生のみなさんから防火作文の募集を行いました。さきごろ入賞者が決まり、3月6日に消防署で表彰式を行いました。応募作文は小学校の部に52点、中学校の部に14点で、市長賞には望月茂利君（伝法小）と中村登茂枝さん（吉原3中）が選ばれています。

